

# フォスタリングチェンジ・プログラム 2018年度実施報告



NO CHILD SHOULD  
GROW UP ALONE



はじめに	01
フォスタリングチェンジ・プログラムについて	02
プログラムの概要	03
2018年度実施概要	05
実施報告	
フォスタリングチェンジ・プログラムin札幌	06
フォスタリングチェンジ・プログラムin宮城	07
フォスタリングチェンジ・プログラムin千葉	08
フォスタリングチェンジ・プログラムin茨城	09
フォスタリングチェンジ・プログラムin東京	10
フォスタリングチェンジ・プログラムin横浜	11
フォスタリングチェンジ・プログラムin山梨	12
フォスタリングチェンジ・プログラムin長野東北信	13
フォスタリングチェンジ・プログラムin長野中南信	14
フォスタリングチェンジ・プログラムin静岡	15
フォスタリングチェンジ・プログラムin三重	16
フォスタリングチェンジ・プログラムin和歌山	17
フォスタリングチェンジ・プログラムin山口	18
フォスタリングチェンジ・プログラムin福岡	19
フォスタリングチェンジ・プログラムin久留米	20
フォスタリングチェンジ・プログラムin長崎	21
フォスタリングチェンジ・プログラムin熊本	22
フォスタリングチェンジ・プログラムin沖縄	23
里親学習会	24
フォスタリングチェンジ・プログラム アフターセッション	
プログラムに関する里親の評価	25
フォスタリングチェンジ・プログラムの効果に関する報告	27
ファシリテーターフォローアップミーティング	29
総括 今後の活動展開にむけて	30

## フォスタリングチェンジ・プログラムの全国への展開を願って — SOS子どもの村JAPANからのメッセージ —

| 常務理事 坂本 雅子 |

「(特)SOS子どもの村JAPAN」は、2005年から福岡市で始まった児童相談所と「(特)子どもNPOセンター福岡」の協働の里親普及支援事業「新しい絆プロジェクト」から生まれました。この中から、「すべての子どもに愛ある家庭を」をスローガンに、子どもの権利条約を尊重し、家庭養育を世界に展開する「SOS子どもの村をわが国に」という活動を開始、2010年に福岡市西区に「子どもの村福岡」を開村しました。現在、里親を中心に「チームとなって」、「専門家支援のもと」「地域とともに」子どもたちを育てています。また、地域で困難を抱えた家族のために一時保護やショートステイの受入れ、「土日祝日・平日夜間の相談」、「里親専門研修」などを行っています。

この里親支援の実践の中で、上鹿渡和宏長野大学教授がわが国に導入しようとされていた「フォスタリングチェンジ・プログラム」を知り、里子の問題行動に日々苦悩しておられる日本の里親さんにぜひ届けたいと強く思いました。幸い、日本財団や福村出版からの支援をいただき、イ

ギリスからキャシー・ブラッケビィ、キャロライン・ベンゴ両先生をお招きし、福岡市で第1回の「ファシリテーター養成研修」を行い、3年を経過した今年は、すでに18の自治体で展開されるまでに発展しました。

今、日本の子ども家庭福祉は、2016年の児童福祉法改正に引き続き、2017年には、広く地域の子どもと家族の支援から、代替養育の里親委託率や特別養子縁組などの数値目標を示した「新しい社会的養育ビジョン」が示されたことにより大きな転換期を迎えています。2019年度はビジョンの具体化のための「都道府県推進計画」の策定が進んでおり、里親養育推進の要となる「フォスタリング機関のガイドライン」も示されました。このような中、この「フォスタリングチェンジ・プログラム」は、里親研修の中で、大きな役割を担うことと確信します。第1回、第2回とともに、この報告書が、今後各地で生まれていく「フォスタリング機関」の中で活用されることを願って、第3回の報告書をお届けいたします。



## フォスタリングチェンジ・プログラムについて

| 長野大学 教授・精神科医 上鹿渡 和宏 |

2016年改正児童福祉法に「家庭養育優先原則」が示され、2018年7月には都道府県計画策定要領が国から提示されました。今後代替養育については里親委託における養育の質をどう担保するかが大きな課題です。里親養育を包括的に支援するフォスタリング機関の設置と里親の養育スキルの向上が必要です。

フォスタリングチェンジは1999年ロンドン・モーズレイ病院の専門家チームによって開発された子どもが委託されている里親のための研修プログラムです。アタッチメント理論、社会的学習理論に基づき、週1回3時間程度、里親グループ(6~10人程度)でのセッションを12回実施します。社会的養護下の子どもの抱える課題、様々な虐待の影響に配慮した子どもの視点での理解とそれに基づく対応について学びながら実践を続けることで、子どもの行動の背景にあるニーズに気づき、対応できるようになることを目指します。里親が自分で問題を見つけるための方法や考える枠組を提供します。さらに、里親の自尊感情や自信を回復する重要性が明示されている点も特徴的です。参加者は必要な専門的知識を子どもとして、また親としての自身の経験に照らしつつ、他の養育者の経験やロールプレイ、グループ討論などを通して学び、それが確実な実践につながるように工夫されています。

このプログラムでは、まず子どもとの関係の改善・向上に力点を置きます。問題行動の解決のみに焦点化するのではなく子どもとの良好な関係形成に力を注ぎます。問題行動への直接的アプローチに類する実践的スキルは後で学ぶこととなります。また、実施前の家庭訪問による聞き取り調査やプログラム開始前と終了時の客観的尺度を用いた評価が組み込まれており、さらにセッション毎のアンケートも準備されています。ロンドン大学キングスカレッジのチームにより、ランダム化比較試験(RCT)という信頼性の高い研

究方法で、このプログラムの短期的効果についての評価もなされ効果が確認されています。

日本への導入にあたっては、SOS子どもの村JAPANと福岡市が中心となり、日本財団からの助成を受けて企画委員会が立ち上げられました。企画委員会は新たに里親養育支援という重要な役割を担っていくことになる関係者が集う場となりました。第1回ファシリテーター養成コースが2016年3月に福岡で実施され20人のファシリテーターが受講し、同年5月から福岡市で日本最初の里親向けプログラムが実施されました。懸念された出席率も97%と非常に高いもので、参加者からも好評でした。本プログラムの準備・実施を通して里親支援者の専門性向上も期待でき、個別相談においてもそれぞれに応じた助言に生かすことができるようになりました。その後、熊本でも乳児院を会場にプログラムが実施されました。また、2017年2月には東京で第2回ファシリテーター養成コースが開催され、同年度中に全国11か所で里親向けプログラムが実施され、およそ70名の里親を対象に実施した評価によりプログラムの効果も確認されました。その後2018年3月長野県、18年8月宮城県、19年3月和歌山県でファシリテーター養成コースが開催され、これまで5回の養成コースの受講者は100名を超えました。2018年度は北海道から沖縄まで全国18か所で里親向けプログラムが実施されています。来年度は日本人トレーナーによるファシリテーター養成コースの開催や、新たに思春期版プログラムの実施も予定されています。

これまで里親養育を続けてこられた方々だけでなく、新たにフォスタリング機関のもとで養育者となる方々にもこのプログラムを受けていただき、子どもたちのために様々なよい変化がもたらされることを願っています。

## フォスタリングチェンジ・プログラムの概要 | 松崎 佳子 |

フォスタリングチェンジ・プログラムは、アタッチメント理論、社会的学習理論、認知行動理論に基づき、ペアレントトレーニングの考えも取り入れて1999年にロンドンのモーズレイ病院の専門家チームによって開発されたものです。その後、現場での実践と評価を経て2011年に改訂版のマニュアルが出版され、これに基づいた無作為化比較試験(RCT)が2012年に実施されました。社会的養護下にある子どものかかえる問題、特に様々な虐待の影響に配慮した子どもの理解とそれに基づく対応について、子どもの長所に焦点をあて、育み、認証し、実践的なスキルを学び、家庭で実践するプログラムです。効果的な褒め方やアテンディング、限界設定やタイムアウトなどについて学びながら実践し、里親自身が自分で考え対応できるようになることを目指すプログラムとなっています。

### プログラムの実施構成は、以下の通りである。

- 週1回3時間、グループでのセッションを12回(約3か月)継続。
- 対象者は、実際に里子を委託されている里親6～12名まで。
- 最低2名のファシリテーターが担当する。
- お茶やお菓子が用意され、温かい雰囲気の中で実施される。

### プログラム内容は、右図のフラワーパワーに示されているような4つの要素からなっている。

- 養育に最も必要な要素として「温もり」と「観察」が基本となる。
- 以下の①から④の順番でセッションが実施されるよう構成されている。
  - ① 関係性を強化する～褒める、アテンディング(肯定的注目)、代替行動を選ぶ、有形の報酬、ご褒美表、遊び
  - ② 教育～子どもの学習を支援する、宿題方略、子どもの読書を支援する、学校とコミュニケーションを取る
  - ③ ソーシャルスキル～リフレクティブ・リスニング、思考と感情に名前を付け管理する、アイ・メッセージ、問題解決、ストップ・プラン・アンド・ゴー
  - ④ ポジティブ・ディシプリン(肯定的なしつけ)～明確で穏やかな指示、選択的無視、自然な結果と合理的な結果、家族のルール、タイムアウト

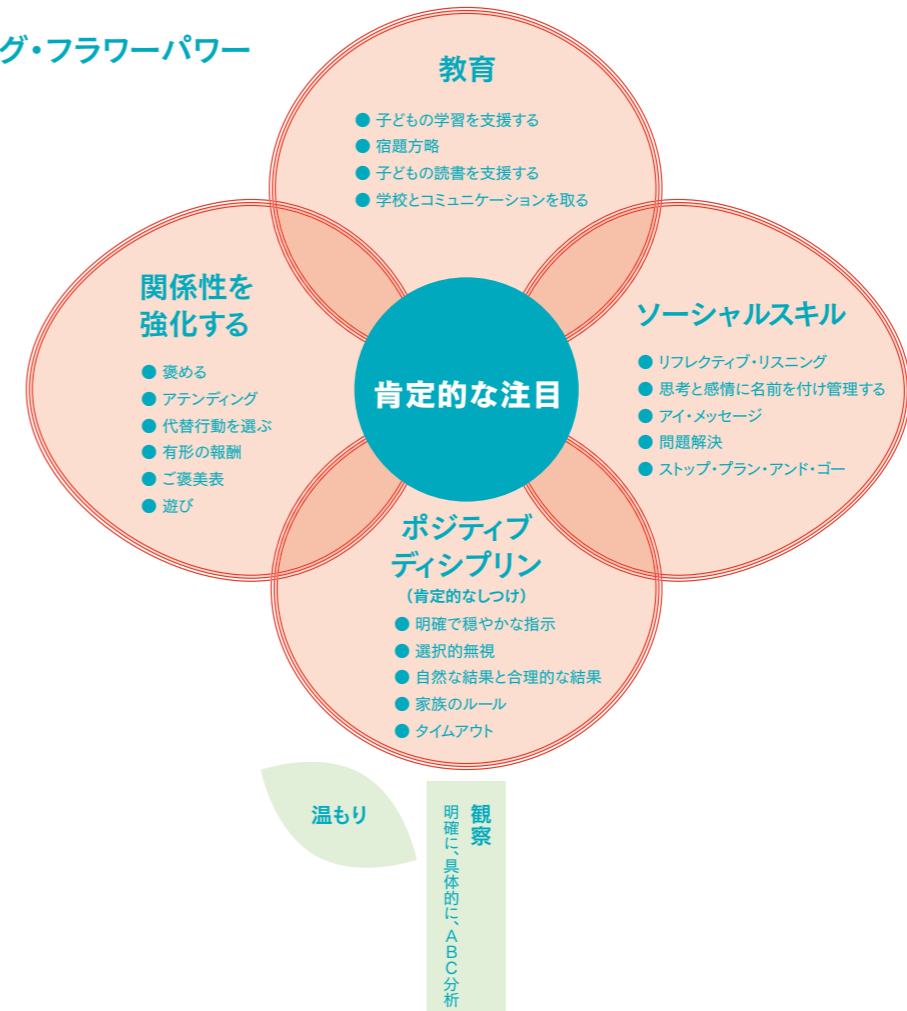
### さらに、プログラムの特徴として以下の点があげられる。

最初にファシリテーターとなる担当者が里親宅を個別に訪問し規定の聞き取りを実施し、その情報をグループでのセッションに生かすなど、個別訪問による事前の関係づくりによってプログラムへの里親の参加・継続率が高く維持されている。各セッション終了時に里親からの評価が行われ、相互性のあるプログラムとなっている。里親は、基本的に1人の子どもを対象に行動観察、プログラムの演習実践を試行するが、他きょうだいにも並行して応用することが可能である。また、子どもの行動やアタッチメントなどについて、事前事後の評価を行うことができる。

### セッション内容

項目	具体的内容	
1	グループを創設し、子どもの行動を理解し記録する	グループワークのきまり、子どもの経験、発達に関する理解と問題の再認識、行動を観察し記録する
2	行動への影響：先行する出来事および結果	アタッチメント理論、社会的学習理論、行動のABC分析
3	効果的に褒める	行動の根底にある子どものニーズを考える、肯定的行動を促すために褒める、代替行動を選ぶ
4	肯定的な注目	遊びの利点、アテンディング(肯定的な注目をういて共にいること)、描写的コメント
5	コミュニケーション・スキルを使い、子どもが自分の感情を調整できるように支援する	効果的なコミュニケーションのためのスキル向上、リフレクティブ・リスニング、感情に名前をつける
6	子どもの学習を支援する	特別な教育ニーズ、子どもの読書を支援する、思考と感情を管理する：否定的自動思考
7	ご褒美およびご褒美表	子どもが感情を調整するのを支援する、アイ(私)・メッセージでコミュニケーションを取る、ご褒美表を使って肯定的行動を強化する
8	指示を与えることおよび選択的無視	効果的な指示、注目の別の使い方：選択的無視
9	ポジティブ・ディシプリン(肯定的なしつけ)および限界の設定	しつけの必要性、家族のルール、限界を設定する、自然な結果と合理的な結果(子ども自身の学びを支持する)
10	タイムアウトおよび問題解決方略	適切なタイムアウトの実施方法 問題解決のための枠組み：ストップ・プラン・アンド・ゴー
11	エンディングおよび総括	子どものライフストーリー理解を助ける、中等学校への移行、プログラムの復習
12	肯定的変化を認め、自分自身をケアする	養育者自身のケア、自尊感情の重要性

### フォスタリング・フラワーパワー



## 2018年度フォスタリングチェンジ・プログラム実施状況の概要

松崎 佳子

日本へのFCP導入に向けてNPO法人SOS子どもの村は、2015年度より日本財団の助成を受け、学識経験者、児童相談所や里親会、施設経験者、学識経験者からなる企画委員会を立ち上げ検討してきました。2016年3月福岡においてファシリテーター養成研修を実施し、2018年度までに108名のファシリテーターが養成されています。

プログラムは、2016年度、福岡、熊本において実施され、2017年度は、11か所、そして、2018年度は、下記のとおり北海道から沖縄まで18か所での実施と拡がってきています。実施期間は、5月～8月が6か所、9月～12月が

10か所、1月～3月1か所と、おおよそ春季、秋季に分かれています。各地の実施機関は、児童相談所、里親支援に関わるNPO、乳児院、児童養護施設などが、単独または協働で実施するなどさまざまです。各地区とも、家庭訪問でのプログラムの説明や家族の状況の把握から始まり、暖かい雰囲気の中で、里親の自主性やグループでの活動を大事に実施しています。週1回、3時間、12回という継続研修であるにも関わらず、出席率は90%強と好評で、委託後の研修として有効性の高いプログラムであると実感しています。

地域	実施時期	対象者	実施主体機関
宮城	5月～7月	8名(養育里親1名、ファミリーホーム2名、養子縁組2名、養育補助者2名、地域小規模児童養護施設1名)	里親支援センター
山梨	5月～7月	6名(養育里親5名、ファミリーホーム1名)	児童相談所
静岡	5月～7月	5名(養育里親5名※諸事情により1名不参加)	NPO里親支援センター
和歌山	5月～7月	6名(養育里親3名、養子縁組2名、専門里親1名)	乳児院・児童養護施設
福岡	5月～7月	6名(養育里親4名、ファミリーホーム1名、養育補助者1名)	児童相談所・NPO児童家庭支援センター
久留米	5月～7月	5名(養育里親4名、養子縁組1名※諸事情により、1名不参加)	乳児院・児童養護施設
北海道	9月～12月	6名(養育里親4名、ファミリーホーム1名、養子縁組1名)	児童家庭支援センター
千葉	9月～12月	8名(養育里親4名、ファミリーホーム2名、養子縁組1名、養育補助者1名)	県児童福祉施設協議会・里親支援専門相談会
東京	9月～11月	12名(養育里親11名、ファミリーホーム1名)	乳児院
横浜	9月～11月	8名(養育里親8名)	一般社団法人
長野(東北信)	9月～12月	7名(養育里親6名、ファミリーホーム1名)	乳児院
三重	9月～11月	7名(養育里親5名、専門里親1名、ファミリーホーム1名)	児童相談所
熊本	9月～11月	5名(養育里親1名、ファミリーホーム1名、養子縁組2名、地域小規模児童養護施設1名)	フォスタリングチェンジteamくまもと
茨城	10月～1月	4名(養育里親3名、養子縁組1名)	児童家庭支援センター
長野(中南信)	10月～12月	7名(養育里親6名、ファミリーホーム1名)	乳児院
長崎	10月～12月	5名(養育里親4名、養子縁組1名)	里親支援センター
沖縄	12月～2月	6名(養育里親4名、ファミリーホーム2名)	児童養護施設
山口	1月～3月	7名(養育里親4名、養子縁組2名、児童養護施設職員1名)	県子ども家庭課

## フォスタリングチェンジ・プログラム in 札幌

児童養護施設 興正学園 里親支援専門相談員 小野 実佐  
児童家庭支援センター 興正こども家庭支援センター 臨床心理士 佐藤 慧

- 【実施主体】 興正こども家庭支援センター
- 【実施期間】 9月21日～12月21日(毎週金曜日) 10時～13時
- 【実施場所】 興正学園
- 【参加里親】 6名(養育里親4名、ファミリーホーム1名、養子縁組1名) 出席率86%
- 【参加体制】 ファシリテーター2名、アシスタント1名、オブザーバー3名  
(札幌市児童相談所里親担当職員、札幌市内児童養護施設・乳児院里親支援専門相談員)
- 【フォローアップ】 2019年3月1日実施予定

### ファシリテーターが大切にしたこと

- 参加者一人一人を大切に迎え入れた。
- 里親が自分の課題に向き合う場面を敏感に察知し、サポートした。
- 児童養護施設における社会的養護児童の養育体験をもとに事例を伝え、より理解が深まるようにした。

### 実施後の里親と里子との関係の変化

- 里親養育をする自信が強めた。
- 里親の笑顔が増えたことで家庭自体が明るくなった。
- 冷静に状況を捉え客観視しながら子どもと関わるスキルが身に付いたことで、里子にも実子にも怒らなくなった。
- 子どもの言動に対して背景に何があるかを考えて動けるようになった。
- 里親が自分の気持ちを言葉化できるようになり、里子と話し合える時間が増えた。
- 更に里子が可愛いと思えるようになった。

### 終了時の参加者の様子

- 里親仲間に受講を勧めたり、学んだスキルをママ友や里親友達に広めていた。

- 里子の実親に対して、FCPで学んだスキルを伝えていた。
- 養育の悩みを共有できる里親同士の繋がりが育まれた。
- 学んだスキルを実子への養育にも汎用化している。

### その他：里親養育のPR

- 興正学園広報誌にてプログラムを紹介し、参加里親の声を載せた。
- オブザーバー参加があることで里親養育の課題を各関係機関と共に共有し、理解を深めた。

### まとめ

- 里親養育において支援機関と共に、里子を養育するというチーム的な視点を参加者が得たと思われる。



## フォスタリングチェンジ・プログラム in 宮城

丘の家子どもホーム 大内 治子  
みやぎ里親支援センターけやき 石垣 ひさえ

- 【実施主体】 みやぎ里親支援センターけやき
- 【実施期間】 5月2日～7月18日(毎週水曜日) 10時～13時
- 【実施場所】 みやぎ里親支援センターけやき
- 【参加里親】 8名(養育里1名、ファミリーホーム2名、養子縁組2名、養育補助者2名  
地域小規模児童養護施設1名)  
出席率91.7%



### 実施状況

実施2年目。チラシ広報では反応は薄く期間内に参加者が集まらなかったが、前年プログラムを体験した方からの口コミと、個別の声がけでメンバーを募った。

参加者はみな積極的に取り組んでくれ、ロールプレイもとても盛り上がった。難しさを感じたのは、参加者属性による違い。参加者のうち3名は子どもと接するのが週2～3日という補助者。各自工夫はしてくれたものの、毎週出される課題に限られた関わりの中だけでは子どもの変化を感じるには至りにくく、フィードバックの面での厳しさを感じた。また、複数の養育経験がある参加者が過半数を超えており、残り2名の養子縁組里親がグループに打ちとけるまでに時間を要した。スタッフ側で共有し、参加者それぞれに個別での配慮は心がけていたが、グループ全体にも働きかける更なる工夫があれば良かったと思う。

### プログラム時に工夫したこと

毎セッションに対し各2回打ち合わせを行うなど、準備に時間をかけたことで、前回課題だった時間配分等への工夫ができるようになり、スムーズな実施につながった。

今後広くプログラムを定着普及させるため、各児相里親担当者と施設の里親支援専門相談員に日程調整の上で

見学参加を依頼した。

前年度終了者からは継続して復習する機会がほしいという声も多かったため、定期的にフォローアップを実施した。

### まとめと課題

昨年と同様に、養子縁組里親参加者は、子どもの問題性や困り感は少ないものの、プログラムへの評価がとても高かった。参加者からは「グループワークならではの他では得られない一体感」との感想があったが、ファシリテーターやスタッフとの結びつきも大きく、終了後の交流にも発展している。フォローアップの継続とともに、更なる支援にもつながっていったらと思う。



## フォスタリングチェンジ・プログラム in 千葉

児童養護施設 ほうゆう・キッズホーム 里親支援専門相談員 馬場 敏  
児童養護施設 房総双葉学園 里親支援専門相談員 野村 恵美  
児童養護施設 晴香園 里親支援専門相談員 門馬 真之  
児童養護施設 子山ホーム 里親支援専門相談員 柴田 弘子

- 【実施主体】 千葉県児童福祉施設協議会 里親支援専門相談員会
- 【実施期間】 9月27日～12月13日(毎週木曜日) 10時～13時
- 【実施場所】 パルシステム☆ちば
- 【参加里親】 8名(養育里親4名、ファミリーホーム2名、養子縁組1名、養育補助者1名) 出席率91%
- 【参加体制】 ファシリテーター4名、補助スタッフ 第1期受講生8名がローテーションで参加
- 【フォローアップ】 第1回 2019年3月7日(木) 10時～13時

### 実施状況



- 実施主体は千葉県児童福祉協議会、里親支援専門相談員部会。部会として承認され、活動費が得られたため、プログラムの実施経費を部会費から算出できることになった。また、里親会との協働も進み、告知がしやすくなった。今回は、里親会から会員への郵送物に参加者募集案内を同封予定であったが、手違いがあり、出来ず。相談員、1期生から募集案内の手渡し、口コミで集めた。
- 生活協同組合パルシステム千葉の協力を得て、生協の施設を安価で借用し、プログラムを実施。千葉駅から徒歩2分の立地にあるため、県全体から参加出来た。
- 地域小規模児童養護施設職員1名参加。セッション内容をチーム全体で共有し、実践したところ、関係性の悪い児童と職員に良い変化が見られたとの報告があった。

### プログラム時に工夫したこと

- 1セッションを4分割し、ファシリテーター4名でアクティビティ担当を分担した。(①メインファシリテーター②パソコン③記録④フリーに分け、ローテーションで実施) 緊急一時保護乳児の託児対応も実施。
- 第1期受講生に補助スタッフをお願いした。(復習を兼ねて、見本ロールプレイ担当)
- 昨年度同様、季節を感じる手作りの装飾や、折り紙の出席シートを用意する等、暖かな雰囲気心がけた。



### まとめと課題

- ファシリテーター4人そろっての家庭訪問と立地条件が良く安価で借用可能な会場の確保が課題
- 受講生が補助スタッフとして加わることで、復習にもなり、受講生同士がつながるといった利点があると感じた。

## フォスタリングチェンジ・プログラム in 茨城

子ども家庭支援センター「どうしん」 笹川 寛  
子ども家庭支援センター「どうしん」 西野 聡美

- 【実施主体】 子ども家庭支援センター「どうしん」
- 【実施期間】 10月31日～1月30日(毎週水曜日) 10時～13時
- 【実施場所】 子ども家庭支援センター「どうしん」グループワーク室
- 【参加里親】 4名(養育里親3名、養子縁組里親1名)  
出席率93.7%
- 【参加体制】 ファシリテーター2名



### 実施状況

グループは4名と少人数でしたが、ファシリテーターや里親同士がお互いを深く理解するには、非常に良いグループでした。

体調不良等で欠席や途中退室も見られましたが、FCP受講に対する里親の意欲は高く、家庭での実践も非常に熱心に、積極的に取り組んでくださいました。また、セッションを重ねるごとに、グループが安全で安心な場所であると感じていただけたようで、セッション中はもちろん、休憩時間やセッション終了後の時間にも、里親としての悩みを涙ながらに話されていました。

### プログラム時に工夫したこと

毎回、セッションを楽しんでいただきたいという思いから、里親の嗜好を考慮した飲み物やお菓子を準備し、季節感を取り入れたウェルカムボードの作成をしました。また、セッション時に使用するシールも、ご褒美の効果を感じていただけるよう配慮しました。プログラムでは常にカタカナ用語が出てくるため、その都度意味をお伝えし、少しでも理解に繋がるよう努めました。

### まとめと課題

参加した里親からは、ファシリテーターが行うロールプレイに好評をいただき、お互いの家庭での実践のフィードバックを聞き合うことが、とても楽しく、参加意欲の維持に繋がったと感想をいただきました。

ファシリテーターの課題としては、予定時間内に収めることや、準備や振り返りの時間の確保であると感じました。予定時間に収まることは少なく、焦りも出てしまいました。また、準備時間の確保は難しく、ファシリテーター2名がそれぞれ予習と準備を行い、当日細かな打合せをするという形が多くなってしまいました。今後は、振り返りの時間も含め、時間内のセッションと、時間の確保に努めたいと思います。



## フォスタリングチェンジ・プログラム in 東京

社会福祉法人二葉保育園 二葉乳児院 長田 淳子 一般社団法人無憂樹 上村 宏樹  
社会福祉法人二葉保育園 二葉乳児院 河村 千代

- 【実施主体】 社会福祉法人二葉保育園 二葉乳児院
- 【実施期間】 9月6日～11月29日(毎週木曜日) 10時～13時 ※9/27(木)は休み
- 【実施場所】 社会福祉法人二葉保育園 法人本部 3階会議室
- 【参加里親】 12名(養育里親11名、ファミリーホーム1名)  
出席率93.7%
- 【参加体制】 ファシリテーター3名、補助者1～2名(状況に応じて変更)  
オブザーバー1名

### 実施状況

東京都内全域の受講要件を満たす里親さんへ6月に案内を送付。10家庭12名の申し込みがあった。



### プログラム時に工夫したこと

- 参加者が多いため、できる限り多くの方とお話できるよう毎回ペアを変えて実施した。
- あたたかい雰囲気づくりを心がけ、お茶やお菓子、ウェルカムボードも季節に合わせて用意した。
- 各セッションの要点や普段の生活ではなじみのない言葉を説明する資料を作り、掲示した。
- 欠席された方には、当日の配布資料のほか、セッションの内容の理解と次回参加されるときモチベーションにつなげられるよう個別にお手紙を作成した。

### まとめと課題

都内全域を募集対象にしたことにより、個性豊か、経験豊かな里親さんに多く受講いただけた。

参加者数が多いことで、家庭での実践の報告や演習、グループの構築に時間がかかる場面もあったが、この課題をクリアできれば、互いの実践から学べることも多く、里親仲間が増えることは何よりも心の支えになる。

課題として、プログラムの質を維持するためにファシリテーターも研鑽を積むこと、修了者のフォローアップの進め方が挙げられる。



## フォスタリングチェンジ・プログラム in 横浜

こどもみらい横浜 福島 里美・村田 和木・中山 貴詞

- 【実施主体】 一社こどもみらい横浜
- 【実施期間】 9月7日～11月30日(毎週金曜日 除く11月23日) 10時～13時
- 【実施場所】 横浜市西部児童相談所4階談話室
- 【参加里親】 8名(養育里親8名)  
出席率96%
- 【参加体制】 ファシリテーター3名・福島里美(臨床心理士)、村田和木(社会福祉士)、中山貴詞(里親)  
スーパーバイザー1名・田口めぐみ(医師)

### 実施状況

横浜市より160名の里親に公募。10名の応募者より、横浜4児相の里親担当者が8名を選出。(3歳～小学1年生の養育者)

### プログラム時に工夫したこと

幼児を育てる里親が中心だった為、選択的無視やタイムアウトの使い方を整理して伝えた。幼児向けの事例を多く準備して、わかりやすく伝える工夫をした。プログラム終了後、スーパーバイザーを含めた話しあいで、プログラムをアレンジすることができた。



### まとめと課題

◎まとめ  
8人の里親が、新たなスキルの獲得や仲間との関係により、各自の抱える悩みを低減することができた。児相担当者や保育所職員が子どもの変化に気づき、プログラムの効果を多くの人が実感した。

- ◎課題
- 効果があるプログラムだが、年1回実施が精一杯(費用と手間)
- プログラムの効果を里親全員に伝える
- 受講者の定期的なアフタートレーニング
- 思春期プログラムの早期実施



## フォスタリングチェンジ・プログラム in 山梨

乳児院ひまわり 大原 恵美子  
くずはの森 田村 由美子

- 【実施主体】 山梨県中央児童相談所
- 【実施期間】 5月9日～7月20日(毎週水曜日)(最終回のみ金曜日) 10時～13時
- 【実施場所】 山梨県中央児童相談所 会議室
- 【参加里親】 6名(養育里親5名、ファミリーホーム1名)  
出席率86.1%
- 【参加体制】 ファシリテーター2名、補助職員(中央・都留児童相談所)5名



### 実施状況

今年度も試行だったため、ファシリテーターと補助職員で対象児童の年齢や受託歴などを考慮して条件を満たす里親に声をかけ、参加里親を決定しました。今年度は3歳女児、4歳女児、6歳男児(2名)、8歳男児、8歳女児でした。全セッションに参加できるという条件がかなり難しく、参加里親の決定に苦労しました。

また11月2日には、昨年の課題であったアフターセッションを実施することができました。

### プログラム時に工夫したこと

今年度は2回目の実施となるため、昨年度の反省やフォローアップミーティングでいただいたアドバイスを参考にしながら、参加者が楽しんで参加し、話がしやすいような座席のレイアウトを考えたり、休憩場所に季節の花を飾ったりしました。

### まとめと課題

今回は全回参加できる里親がなかなか見つからず、参加里親の決定に苦労し、最終的には事前に欠席しなければならぬことがわかっている里親にも参加をお願いした経過などもあり、参加者が主体的に参加しようとする意欲が持ちづらかったと思います。しかし全セッションを終えた感想では、概ね高評価が得られ、約3ヶ月後に実施したアフターセッションでは、改めてスキルを確認したことで、里親自身の気づきを促し、プログラムの効果を実感できました。

今後は、このプログラムをどのように継続していけるか(実施体制、人材育成など)が課題です。





## フォスタリングチェンジ・プログラム in 長野東北信

うえだみなみ乳児院 竹内 芳美・伊藤 晃代・上鹿渡 菜穂子  
軽井沢学園 金子 悠一郎

- 【実施主体】 うえだみなみ乳児院
- 【実施期間】 9月28日～12月21日(毎週金曜日) 10時～13時
- 【実施場所】 児童養護施設 恵愛
- 【参加里親】 7名(養育里親6名、ファミリーホーム1名)  
出席率91%
- 【参加体制】 ファシリテーター4名、補助者3名



### 実施状況

参加者から活発な意見等があり、内容に深みが出た。参加者同士で意見を交わす、話し合うといったことが好評であった。こういった相互作用が参加者同士のつながりを強めていったものと思われる。

### プログラム時に工夫したこと

今回はローテーション制を導入した。各セッション、ファシリテーター2名とし、家庭での実践を担当したファシリテーターが次のセッションのフィードバックを担当するようなローテーションを組んだ。担当ではないファシリテーターは補助者としてロールプレイやフリップチャート、ハンドアウトを担当した。

事前に準備リストや役割分担表を作成し、効率よく準備が行えるようにした。

参加人数が奇数であったため、ペアワークは3名で組むようにし、できる限り参加者でやりとりできるように配慮した。スキルを練習するロールプレイでは、ファシリテーターや補助者が入るようにした。

### まとめと課題

最終セッションの肯定的変化を振り返る場面では、プリントに熱心に書き込んでくださっていた。また、参加者、里子それぞれに肯定的な変化が生まれたことが発表され、様々な変化があったことが明らかになった。

今後の課題としては、ファシリテーター4名が集まって、リハーサルを兼ねた読み合わせができなかったことが挙げられる。今回は、ローテーション制を採用し、準備も効率良く行った反面、顔を合わせての準備ができなかった。ファシリテーター同士の連携不足や準備不足がグループ形成にも影響してしまったものと思われる。入念な打ち合わせができる時間を確保することも必要であると考え。



## フォスタリングチェンジ・プログラム in 長野中南信

風越乳児院 吉田 千佐紀(里親支援専門相談員)  
松本赤十字乳児院 小川 久美(臨床心理士)

- 【実施主体】 風越乳児院 松本赤十字乳児院 共同主催
- 【実施期間】 10月3日～12月19日(毎週水曜日) 10時～13時
- 【実施場所】 伊那市防災コミュニティセンター 研修室
- 【参加里親】 7名(養育里親6名、ファミリーホーム1名)  
出席率90%
- 【参加体制】 ファシリテーター2名、協力スタッフ3名
- 【フォローアップ】 年度内に実施予定



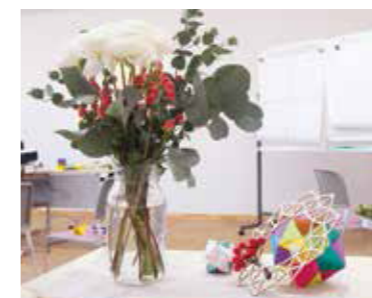
### 実施状況

10月スタートに向け、東北信地区と中南信地区、及び児童相談所広域支援センターとの合同打合せ会を4月に持った。実施に当たって広域支援センターと二つの児童養護施設里親支援専門相談員の協力を得た。

参加者の決定に際しては、県中南部の広い地域をカバーする必要があるため、移動に大きな負担をかけることなく参加してもらえるよう、交通の利便性を考慮した。

### プログラム時に工夫したこと

参加者の安心安全を第一に考え、会場の雰囲気作りから休憩時間の対応までスタッフ一人一人が配慮し、お互いを尊重する温かい雰囲気の中で進められた。意見を言うことに強い不安感を持つ参加者には、あらかじめ意見を求めるタイミングを知らせる等の対応をした。また、カタカナ語が難しいとの意見に応じ、カタカナ語の対応表を作り、新しい言葉が出てくる都度書き足して壁に貼った。



### まとめと課題

参加者中4人が専門里親であり、専門性や学習意欲が高い里親が多い一方、経験が少なく困り感の強い里親もいた。専門里親は自分の知識に縛られることなく、柔軟にプログラムを受け入れ、熱心に学び、実践する姿勢を見せることで他の参加者のよい刺激になった。また里子の年齢幅も大きかったが、それぞれが適用できるスキルを工夫して実践し、新しい気づきを得て積極的にシェアしてくれた。

課題としては、フォスタリング機関としてではなく、複数の施設が集まったの実施であるため、日常業務をこなしながらの実施は人的負担、経済的負担が大きい。広い地域をカバーするため実施場所にも苦慮している。しかし一番の課題は里親の数に限りがあることであり、今後プログラムの実施を継続するためには、里親の数を増やすことが優先課題と思われる。



## フォスタリングチェンジ・プログラム in 静岡

NPO法人静岡市里親家庭支援センター 佐野 多恵子・トマジ 里絵

- 【実施主体】 NPO法人静岡市里親家庭支援センター
- 【実施期間】 5月10日～7月19日(毎週木曜日) 10時～13時 全11回
- 【実施場所】 静岡市郊外のログハウス(里親所有)
- 【参加里親】 養育里親5名、2017年度生6名がオブザーバーとして参加(当番制)  
※5名スタート、諸事情により途中から1名不参加
- 【参加体制】 ファシリテーター2名、アシスタント2名
- 【フォローアップ】 セッション 2018年10月25日、2019年1月24日(2018年度生)  
個別面談 2018年10月～11月(2017年度生)

### 実施状況と課題

2018年度受講者決定後、一人欠員(病気加療)となり5名でセッションをスタートした。更に「グループディスカッションがどうしても苦手」という理由でS4に1名リタイア。開催2年目に見えたものは、受講者の期待感やモチベーション、理解力、プレゼン力などの個人差であった。因らずも、2017年度生がアシスタントを兼ねてオブザーバー参加していたため、意見が出にくい時や、盛り上げを求めるときにはグループに入ってもらう事ができた。

今年度受講生のみならず、2017年度生にも好評であった為、来年度以降もこの形を採用する予定。

### 2017年度受講生

10月に6名の個別面談を実施。2年がかりの全プログラムが終了した。面談は以下の内容を中心に1時間程度で実施した。

- ①近況報告(FCPの方略を踏まえて)
- ②近況を踏まえ、今日からの生活に意識して使える方略を持ち帰る。

### まとめ プログラムの効果

プログラムを受講した里親に共通に感じたことは、自身と子どもの関係にある問題点を明確に、またはある程度理解しており、同時に今後の親子関係を修正し良い方向に舵をきれる方略を持ち合わせている。どの家庭でも育児をするからには、日々の小さな問題、大きな問題に直面する。どんな方略を使うかは別として、その引き出しを持つことが、母の強みと自信に繋がったと感じる。

また常に子どもにとって一番良いことをしたいという親の想いが根底にあるため、FCP後は、積極的に他の研修に参加し自身のスキルアップに努めるようになった。

今後もFCPの精神である里親に癒しの場をつくり、大切な存在としてもてなす事を意識しながらプログラムを実践していきたい。



## フォスタリングチェンジ・プログラム in 三重

三重県北勢児童相談所 角谷 実乃里

三重県中勢児童相談所 岩樋 祥子

- 【実施主体】 三重県児童相談センター
- 【実施期間】 9月13日～11月29日 10時～13時
- 【実施場所】 三重県児童相談センター 研修室 (三重県津市)
- 【参加里親】 7名(養育里親5名、専門里親1名、ファミリーホーム1名)  
出席率95%
- 【参加体制】 ファシリテーター2名に加えて、協力スタッフ4名
- 【フォローアップ】 プログラム終了3か月後に実施予定。



### 実施状況

県内の里親、ファミリーホーム養育者の中から7名が参加。受講者の関心と意欲は高く、受講者の積極的な参加姿勢に支えられ、セッション前半から和気藹々とした雰囲気が進められた。セッション後半にはグループとしてのまとまりもできてきた。最終的には受講者7名全員がプログラムを修了することができた。

### プログラム時に工夫したこと

受講者が歓迎されていると感じられるように、毎回参加時に労いの声をかけ、音楽や飲み物、お菓子を準備し、空調にも気を配った。家庭での実践の報告には、常に肯定的なフィードバックを行うよう心がけた。随時、受講者に合うシールを準備し、評価した。

### まとめと課題

受講者からはプログラムに対する肯定的な評価が得られ、プログラム受講後も家庭で実践を継続しているという声も聞かれた。

課題としては、参加者からの質問が多く出されたセッションでは返答に時間がかかり予定時間を超過してしまうことがあった。



## フォスタリングチェンジ・プログラム in 和歌山

和歌山乳児院 亀山 美幸  
児童養護施設 こばと学園 藤田 征宏

- 【実施主体】 和歌山乳児院／児童養護施設 こばと学園
- 【実施期間】 5月2日～7月18日(毎週水曜日) 9時30分～12時30分
- 【実施場所】 児童養護施設 こばと学園
- 【参加里親】 6名(養育里親3名、養子縁組2名、専門里親1名)  
出席率100%
- 【参加体制】 ファシリテーター2名



### 実施状況

ベテラン里親～委託1年未満、養育～親族まで、さまざまな立場の里親に参加をお願いしました。  
全セッション終了後、家庭訪問を行い里子との関係を確認。2018年10月3日と2019年1月16日にフォローアップセッションを開催しました。

### プログラム時に工夫したこと

2名のファシリテーターでの実施となりました、良い雰囲気が進められるよう打ち合わせを十分に行いました。  
セッション6で里親を称賛し、後半も前向きにセッションへ参加できるようにしました。  
「家庭での養育者は一人では無い」と考えて、毎セッション、養育パートナーに伝達用のプリントを作成しました。



### まとめと課題

里親の協力もあり円滑に実施出来ました。プログラムをきっかけに里親同士のつながりが出来たのが大きな収穫でした。  
支援員の負担が少なくありませんでしたが、回数を重ねる毎に負担は減るか考えています。



## フォスタリングチェンジ・プログラム in 山口

ライクホームはるか 新谷 敏郎  
防府海北園 藤井 有紀

- 【実施主体】 山口県こども家庭課
- 【実施期間】 2019年1月11日～3月29日(毎週金曜日) 10時～13時
- 【実施場所】 やまぐち子育て総合福祉センター 多目的室
- 【参加里親】 7名(養育里親4名、養子縁組2名、児童養護施設職員1名)  
出席率86%(実施済session2までの統計)
- 【参加体制】 ファシリテーター2名、里親支援専門相談員1名、県担当者2名



### 実施状況

実施主体は上記の通りであり、運営上の経費は県が予算化し、募集も県こども家庭課がおこなった。年度内開催が必至である事から1月から3月の実施となった。また、開催地は初回という事もあって県中央部を選んだが、東部、西部からの参加が難しいという意見を頂いている。  
ファシリテーターは、県から業務委託された施設より派遣されている。そのほか、県内の里親支援専門相談員が各session1名、順番に運営スタッフとして参加している。

児童相談所が参加を促したケースが2例ある他は自発的に参加しておられる。応募は8名で事前家庭訪問をおこなったが、開始直前に体調不良を理由に1名が不参加になり、7名でスタートした。

参加者の中に託児希望で各種社会資源の利用を検討されたが、結果的に調整がつかず、今回限定で託児を用意した。

2月22日(金)現在、session7を終えている。参加者は6名で実施中。内1名が慢性的に体調不良のため、欠席しておられる。



### プログラム時に工夫したこと

会場が会議室であるが、室温、採光、雰囲気等について配慮している。着席位置は毎回参加者の状況に合わせて決めている。  
事前訪問の際、必要な事以外に好きな飲み物とフードをお聞きして準備している。  
スタッフが毎回異なるハンドメイドのフードを用意し、参加者から好評を得ている。

### まとめと課題

現在session7を終え、参加者も効果を体感できるなど、毎回楽しみにしているとの感想が聞かれるようになった。質問も徐々に高度になってきており、ファシリテーターも日々精進している。

今年度は年度末の開催になったが、来年度は5月11日(土)～7月19日(金)に県東部地区で実施する予定で、県こども家庭課が既に募集を開始している。今後は3地区を順次開催する予定。

ファシリテーターが2名のみで病気など不測の事態に対応が難しいため増員、並びに土日開催希望もあり検討を要する。

## フォスタリングチェンジ・プログラム in 福岡

SOS子どもの村JAPAN 松崎 佳子(理事、臨床心理士)・平原 健三(臨床心理士)  
福岡市子ども総合相談センター里親係 高橋 恵子(里親対応専門員)・高橋 三津子(里親対応専門員)

- 【実施主体】 SOS子どもの村JAPAN・福岡市子ども総合相談センターえがお館
- 【実施期間】 5月11日～7月27日(毎週金曜日) 10時～13時  
7月6日は西日本豪雨のため休み。翌週に#9、#10を9時30分～14時30分で実施。最終回は10時～15時 全11回 ※7月20日は終業式のため1週休み。翌週にセッション11、12を実施。
- 【実施場所】 福岡市子ども総合相談センター 家族療教室
- 【参加里親】 6名(養育里親4名、ファミリーホーム1名、養育補助者1名) 出席率96%
- 【参加体制】 ファシリテーター4名、スタッフ1名
- 【フォローアップ】 2018年9月18日 2018年11月2日 2019年2月8日

### 実施状況

2018年度のフォスタリングチェンジ・プログラムは、参加者募集を3月上旬～4月上旬に実施。家庭訪問を4月中旬頃に実施。対象年齢児を受託中の里親さんへチラシを配布。また、以前プログラムに参加された里親さんにもチラシを郵送し、口コミでの宣伝をお願いした。

7月上旬に西日本豪雨が発生。急遽、翌週にセッション9と10を午前、午後あわせて実施した。

### プログラム時に工夫したこと

今回もローテーション制を導入。毎回、分担表を作成し、メインファシリテーターを2名とし、残り2名はロールプレイや板書、資料配布を担当。また、昨年に引き続き、シナリオを日本人名に変更するなど、日本になじみにくいものを日本語に置き換え、取り組みやすいように工夫を行った。

今年度の取組として、2016～2018年度の三期合同アフターセッションを実施。感想として、「色々な里親さんの意見が聞けて良かった」「初心に返って久しぶりにフォスタリングに触れられてよかった」など肯定的な評価をいただいている。



### まとめと課題

今年度の受講者の感想は、「参加させて頂く中で子どもとの距離が縮まった気がする」「わらをもつかむ思いで受講したが、わらどころか強靱なロープを掴まさせてもらった」「受講することで私の気持ちに少しゆとりができた」などが聞かれた。

課題として、災害により、急遽セッション9と10を合わせて実施したが、家庭での実践が多くなり、集中できなかったという感想もあった。災害など予定外のことでセッションが休みとなった場合を想定し、予備日の設定などを考えていく必要がある。

## フォスタリングチェンジ・プログラム in 久留米

社会福祉法人慈愛会 児童養護施設 清心慈愛園 原田 三津子(里親支援専門相談員)  
田中 亜弥(臨床心理士)  
社会福祉法人慈愛会 乳児院 清心乳児園 内山悠子(臨床心理士)

- 【実施主体】 社会福祉法人 慈愛会 清心乳児園(乳児院)・清心慈愛園(児童養護施設)
- 【実施期間】 5月8日～7月18日(毎週火曜日) 10時～13時/最終日10時～15時
- 【実施場所】 社会福祉法人 慈愛会 乳児院 清心乳児園(心理棟『ひだまり』)
- 【参加里親】 4名(養育里親3名、養子縁組1名) 出席率97.5%  
※5人でスタートしたが、3回目で1人リタイヤとなった
- 【参加体制】 ファシリテーター3名、スタッフ4名(児童養護施設職員、乳児院職員)
- 【フォローアップ】 1回実施(2019年1月30日 10時～13時)

### 実施状況

チームとして2回目の実施となりました。今年度も少人数のグループで、アットホームな雰囲気の中で開催することが出来たと思います。

プログラムを通して、始めはお子さんの変化を期待されていた里親さん達が、自分自身が変わることで子ども達が変化していくことを実感され、意識的に観察することや具体的に褒める、選択的無視など、自分自身に必要なスキルを継続的に取り入れて子ども達と関わられていました。子ども達の変化が、里親さん達のやる気にも繋がっていたと思います。

### プログラム時に工夫したこと

里親さんの積極性に助けられた所はたくさんありますが、ロールプレイなどの実践を活性化するために、組み合わせを毎回替えるなどの工夫をしました。

### まとめと課題

半年後に開催したアフターフォローセッションでは、今でも継続して取り組んでおられるという報告を嬉しく思うと同時に、このプログラムには養育に必要なスキルがたくさん詰

まっていると改めて実感しました。

今回参加されたメンバーの里子は、当法人を経由して委託されたケースが多かったという特徴がありました。そのため、里親同士で里子が委託された当初の思い出を話す場面も多く、FCPを通してこれまでの子育てを振り返る機会にもなったようでした。

課題点として、昨年度に続いて台風のため1セッション中止になり、急きょ内容の変更をするなどの対応をしました。予備日を設ける等の不測の事態への対応も考える必要があります。また、受講者の幅を広げていくためには土曜日の実施や夜の時間での実施も検討していく必要があると思っています。



## フォスタリングチェンジ・プログラム in 長崎

社会福祉法人 光と緑の園 向陽寮 田添 貴子  
社会福祉法人 光と緑の園 乳児院 三浦 奈利子

- 【実施主体】 長崎県里親育成センター「すくすく」
- 【実施期間】 10月5日～12月25日(毎週火曜日) 9時30分～12時30分
- 【実施場所】 社会福祉法人光と緑の園 おひさまハウス(研修棟)
- 【参加里親】 5名(養育里親4名、養子縁組里親1名) 出席率97%
- 【参加体制】 ファシリテーター2名(光と緑の園向陽寮田添里親SW、乳児院三浦里親SW)  
他4名(すくすく代表・すくすく専任・事務員・心理士)  
里親SW・各センターから里親支援員や心理士など

### 参加里親

- Rさん:男性(里子9歳:11歳)養育里親
- Jさん:女性(里子10歳)養育里親
- Kさん:男性(里子2歳7ヵ月)養育里親
- Mさん:女性(里子2歳7ヵ月)養育里親
- Aさん:女性(里子2歳6ヵ月)縁組里親

### 参加者の感想

フィードバック(家庭での実践)では、他の里親さんの発表が聞いてとても参考になった。幼児を養育中の里親は、アテンディング(肯定的注目)が最も役にたったとの意見があった。こどもの変化については、里親の対応が変わったので、里子が感情的で攻撃的なことがなくなった。学校生活でも自分の意志を示すことができるようになった。各セッションでの「今日の流れ」がスライドだけではなく、プリントして配布か会場に提示して欲しいとの要望があった。

### ファシリテーターの感想

フィードバックの仕方について、松崎先生からのアドバイスを受け里親さん向けに発表をするようにした(当初は、立ってファシリテーターに報告するような雰囲気だったが、

アドバイス後は、グループの中心に椅子(椅子にはぬいぐるみを置いて発表者が緊張しないように工夫した)を設置し座って発表してもらいようにした結果、里親さんから意見や質問などが多く出るようになった。実施前には、チーム熊本に参加させてもらった事で、会場やファシリテーターの繋ぎなど参考になった。里親さんとスタッフ全体での一体感ができコミュニケーションがとれた。

### その他

来年度は、同じ時期の水曜日頃と考えている。土日や、夜の時間帯の実施については、すくすくでの研修があり調整が厳しいところがある。



## フォスタリングチェンジ・プログラム in 熊本

熊本乳児院 傘 正治 NPO法人優里の会 八谷 斉  
児童養護施設シオン園 山川 浩徳

- 【実施主体】 フォスタリングチェンジTeamくまもと
- 【実施期間】 9月6日～11月22日(毎週木曜日) 10時～13時
- 【実施場所】 熊本県中央児童相談所 判定会議室
- 【参加里親】 5名(養育里親1名、ファミリーホーム1名、養子縁組2名、地域小規模児童養護施設1名)  
出席率97%
- 【参加体制】 ファシリテーター3名 スタッフ3名

### 実施状況

3回目の開催となる今回は、5名という少人数のグループでのプログラム実践となりました。里親支援専門相談員に勧められた方、さまざまな機会を通してプログラムについて知り、実際に体験したことで自主的に申し込まれた方が参加をされています。加えて、地域小規模児童養護施設の職員にも参加をいただき、里親と施設の相互理解にもつながったのではないかと考えます。

また、行政の関与が少ない熊本での開催ですが、今年度は熊本県中央児童相談所の理解と協力のもと、全12回のプログラム全てにおいて会場の提供をいただき実施することができました。

### 委託解除直後の里親の参加

家庭での実践を柱の一つと据えたこのプログラムにおいて、子どもの委託が参加の条件となりますが、今回、上鹿渡先生、松崎先生に説明、相談を行い、家庭での実践についてはご家族に協力していただくという形で、委託解除直後の未委託となった里親の参加を認めました。様々な困難の中で不調を迎えた里親でありましたが、このプログラムにおいては、自らの体験に基づく多くの話題の提供をしていた

だき、また自らの養育を振り返り「どのような対応が?」ということについても考える機会にさせていただけたものと思います。

### さまざまな場面で…

今年度も熊本では、里親スキルアップ研修や専門里親更新研修、里親会キャンプなどプログラム実施以外のさまざまな場面で、プログラムを知っていただけるような機会を提供させていただきました。



## フォスタリングチェンジ・プログラム in 沖縄

美さと児童園 島袋 望  
石嶺児童園 仲本 悦子

- 【実施主体】 美さと児童園、石嶺児童園
- 【実施期間】 2018年12月5日～2019年2月27日(毎週水曜日)10時～13時
- 【実施場所】 児童養護施設 なごみ
- 【参加里親】 6名(養育里親4名、ファミリーホーム2名) 出席率90%
- 【参加体制】 沖縄県里親支援専門相談員5名(ファシリテーター2名、サポーター3名)  
※里親さんより資料代1000円(12セッション分)



### プログラムに工夫したこと

各セッションごとに説明することの要点や専門用語をまとめフリップチャートを作成し掲示。座席の位置やグループワークのペアを配慮した。マニュアルで提示されている時間配分を、必要に応じて、本県独自の配分調整を行った。(時間内には終了)、評価表を基に里親さんの意見を次回に反映するよう努力した。欠席者へは、家庭訪問の実施やプリントに手書きで要点をまとめ、メッセージも添えて郵送。

12セッションにて、里親さん同士だけではなくファシリテーターよりフラワーカードを修了証書と一緒に添えた。感謝の花言葉であるピンクガーベラを贈った。パーティーにて、ファシリテーター、サポーターも一品持ち寄りを実施。ファイルを入れるバッグ、手作りのグッズ(ワッペン、グループ分けの果物)、収納かごの準備。

事前家庭訪問にて、希望の茶菓子を聞き取りし、時折茶菓子として提供。行事等(クリスマス、お正月)は、装飾で雰囲気作りを出した。ウェルカム、休憩、グループワーク、終了時は音楽を変えてメリハリ(気持ちの切り替えができるよう)をつけた。

要点や専門用語のオリジナルプリントを作成し配布。ファシリテーターの家庭で実践されている実際のご褒美表を持参し説明を行った。本県は、里親支援専門相談員

全員で実施。

### まとめと課題

- 本県は前半、後半に分けてセッションを担当したが、メリハリとしては各スキル、事細かな役割分担の実施も検討。
- テーブル付きの椅子について検討。
- 時間内での説明の実施。里親さんより説明が早いと評価より意見あり。
- 養育している子どもの問題の課題が低い里親さんの参加率の低さ。参加への意欲が低い。ワークにも影響があった。問題を抱えている里親さんと、抱えていない里親さんの温度差。和訳であるため、あまり日本の状況(事例等)に適していない表現があった。里親さんより日本にあった訳しかたをすともっと理解しやすかったとコメントあり。子どもへ協力して頂いた協力証書の発行。

### その他

里親さんの声

- 資料が少ない(パワーポイントの方も欲しい)。



## 里親会学習会 フォローアップセッション

天久 真理・山形 裕子

- 【実施主体】 6月13日、9月12日、12月12日 2月13日 10時～13時
- 【実施場所】 みつけばる会館
- 【参加里親】 8名(福岡市里親、佐賀県里親) 出席率78%
- 【参加体制】 ファシリテーター2名 サポーター6名

受講者から「フォローアップ学習会を継続的に受講できるからフォスタリングチェンジ・プログラムを家庭で絶え間なく取り組んでいる」「養育例が受講者仲間の実例だから、理解しやすく記憶に残る」など学習会への熱い要望に応じて、今年度も4回のフォローアップセッションを開催した。2016年12月、全セッション終了後から通算7回開催したことになる。毎回、事前調査をして家庭で抱える問題を聞き取り、その一例でロールプレーを組み立て、その対応を全員で討議する流れで、学習目標は、主にセッション5(感情調整の支援)になることが多く、受講者が常々この問題に直面しておられることを痛感する。今年度は諸々の手法で取り組んでも低空飛行のままで、セッション修了直後の溢れんばかりの希望を見失っている数人の養育者の姿が気になった。そこで、初心に立ち戻りフォスタリングの基本「褒めること」「肯定的な注目」に着眼し、フラワーパワーの意味をみんなまで再認識した。温もりがなくては、大輪の花は咲かないと。最終回では、来年度(4回)の開催日時を決定し、フォローアップ学習を2年間も継続していることを称え、手作りの表彰状を手渡した。来年度の初回学習会6月まで受講者達はグループラインで繋がり、お勧め書籍、DVDの情報や近況報告が飛び交うことだろう。



## フォスタリングチェンジ・プログラム アフターセッション

プログラム修了後、家庭での実践を支えるため、振り返りを行うセッションを各地区で実施しています。現在は、北海道、宮城、東京、千葉、横浜、山梨、三重、長野、静岡、和歌山、福岡市、福岡県久留米市、熊本各地域で実施されています。実施内容はフォスタリングチェンジ・プログラムの内容に基づいた近況報告を実施し、その後、事前にわかりにくかったところやもう一度復習してみたいスキルを記入していただき、スキルの復習を行うなど、各地域のごとの取り組みがなされています。





## プログラムに関する里親の評価

受講者108名(北海道、宮城、茨城、東京、千葉、横浜、山梨、長野(中南信、東北信)、静岡、三重、和歌山、福岡、久留米、長崎、熊本、沖縄)計17か所

最も役に立つと思った考えやスキル(1人5つ回答。記入者106名)

スキル名	回答数
●アテンディング	70名
●選択的無視	57名
●ご褒美及びご褒美表	49名
●効果的に褒める	44名
●アイメッセージ	32名

子どもの行動の変化(5段階評価 1:ひどくなった⇔5:大変よくなった)

実施場所17か所の合計 対象児(記入者101名) 平均4.2点/5点満点

実施場所17か所の合計 きょうだい児(75名) 平均3.8点/5点満点

関係性	<ul style="list-style-type: none"> <li>●困ったときに相談に来るようになった。</li> <li>●目を見て穏やかに話すと言うことを聞けるようになった。</li> <li>●「〇〇、いい子?」とあまり言わなくなった半面、おんぶ等甘えを多く出している。</li> <li>●甘えるようになり、話をするようになった。里父との関係もよくなった。</li> <li>●こちらで聞かなくても、一日の何気ない出来事を話してくれるようになった。</li> <li>●大人への愛情表現が増えた。</li> </ul>
感情調整	<ul style="list-style-type: none"> <li>●かんしゃくが激減した。</li> <li>●「うるさい」という言葉や意地悪なことをあまり言わなくなった。</li> <li>●行き過ぎた行動(暴れるなど)をコントロールするようになった。</li> <li>●気持ちを言葉で表現することが増えた。</li> <li>●泣いて訴えることが減った。</li> <li>●物を投げることが少なくなった。</li> <li>●キレる・泣きわめく事が減った。</li> <li>●泣きわめく事もあるが、落ち着くのが早くなった。</li> </ul>
行動	<ul style="list-style-type: none"> <li>●遊びながら食事をしなくなった。</li> <li>●自主的にお手伝いをするようになった。</li> <li>●朝の身支度でのトラブルが減り、行動がスムーズになった。</li> <li>●いたずらや危ない行動のエスカレートが減った。</li> <li>●次にすることを指示し、行動できるようになった。</li> <li>●人に合わせるできるようになった。</li> </ul>
学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>●宿題などの取り掛かりが早くなった。</li> <li>●自分からすすんで宿題をするようになった。</li> <li>●宿題を丁寧にするようになった。</li> <li>●学習の際、分からなかったり、間違ったりした時に「あっそうやった」「分からない」「しまった」と言える回数が増えた。</li> <li>●宿題や学校の準備など自分でできるようになった。</li> <li>●幼稚園に行かないと言わなくなった。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>●穏やかになった。</li> <li>●兄弟仲良く遊べるようになった。</li> <li>●切替が早くなった。</li> <li>●明るくなった。</li> <li>●話を聞いてちゃんと考えるようになった。</li> <li>●考えて、家族のために動けるようになった(布団を3人分敷くなど)。</li> <li>●片付けがスムーズになった。</li> <li>●笑うようになり、笑顔が増えた。</li> <li>●少し我慢強くなった。</li> </ul>

里親と里子の関係性の変化(5段階評価 1:とても悪い⇔5:とても良い)

実施場所17か所の合計(記入者91人) 平均4.5点/5点

- お互いの信頼性が増した。良いこと、悪いことが子どもにも理解できるようになった。お互い大好きと言える関係になった。
- 信頼関係ができ、自分も子どもの良い所に気付くことができた。
- 自分のイライラが少なくなって、よく観察することでアイコンタクトが自然と増え、子どもの笑顔が増えた。
- 子どもが多少機嫌が悪くても自分の話を聞いてくれるようになった
- 更によくなったと思う。私がイライラすることが減った。子どもに対して余裕が出てきた。
- 楽しくなった。以前は一緒にいて楽しいというよりも「やらないと」であふれていたようにも思う。

里親としての感じ方への影響

内省	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自分の感情をコントロールすることができるようになった。いい加減な子育てをしてきたことの反省をすることができた。</li> <li>●子どもの接し方、里親の態度について理解が深まった。</li> </ul>
変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>●とても考え方が変わりました。本当に私が楽になりました。</li> <li>●子どもを一人の人間としてみる(人権意識)が高まった。</li> <li>●子どものイライラに敏感になりにくくなった。</li> <li>●褒めることが、好循環の魔法を生むことに感動した。</li> </ul>
自信	<ul style="list-style-type: none"> <li>●里親として頑張っていることを応援してくれたプログラムだと思った。</li> <li>●様々なスキルを覚えて使うことで、さらに子どもとの関係がよくなると自信が持てた。</li> <li>●子育てに不安だらけだったのが、安心して子どもと向き合えるようになりました。</li> </ul>
仲間	<ul style="list-style-type: none"> <li>●他の里親さんの話を聞いて良かった。</li> <li>●他の里子の同じような様子を聞くと安心した。問題が起きた時の対応など、心に余裕ができた。</li> <li>●受講生同士の会話を通して同じ悩みを他の方も抱えているのだと思い、心が軽くなりました。</li> </ul>

家庭訪問を受けたことでどう役に立ったか。(複数回答)

記入者(104名)	回答数
a.全く役に立たなかった。	2名
b.コースに参加することに自信が持てた。	44名
c.里親として支援されていると感じた。	69名
d.ファシリテーターは、里親として、私が必要としていることに関心があるとわかった。	48名
e.その他(自由記述)	26名
<ul style="list-style-type: none"> <li>●ファシリテーターと面識があることで親近感が持て、緊張感を和らげることができた。</li> <li>●プログラムの理解と自分のニーズについて改めて考える時間にできた。ファシリテーターの雰囲気はわかりホッとした。</li> <li>●なんとなく声をかけられたから参加する、という感じでいたと思うが、誘われたからだけでなく、自分から自主的に参加する心構えが出来たと思う。</li> </ul>	



## フォスタリングチェンジ・プログラムの効果に関する報告

東京福祉大学 心理学部専任講師 佐藤 篤司

フォスタリングチェンジ・プログラムに参加した里親には、プログラム開始前と終了後に質問紙への回答に協力いただいた。以下に挙げる6つの尺度は、付属資料としてプログラムに含まれているものである。これらの尺度に関して、対象の子どもについて記入をお願いした。そして得られた里親の回答について、プログラム前後での比較検討を行った。

### 対象

2017年度に東京、千葉、三重、山梨、福岡県久留米、福岡県福岡市、静岡県、熊本県、長野県、宮城県、大分県の11か所で開催されたフォスタリングチェンジ・プログラムに参加した里親72名(里父13名、里母59名)を対象とした。

### 使用 尺度

- (1) 子どもの強さと困難さアンケート(SDQ): 情動、行為、多動、仲間関係、向社会性の5つの下位尺度と、向社会性を除いた4つの下位尺度の合計点であるTotal Difficulties Score (TDS)によって、評定する。
  - (2) アラバマ・ペアレンティング質問票 (APQ)
  - (3) 里親の自己効力感についての質問紙 (CEQ)
  - (4) アタッチメントの質に関する質問紙 (QUARQ)
  - (5) 里親のコーピング方略尺度 (CCS)
  - (6) ビジュアル・アナログ尺度 (VAS)
- VASは、心配事の程度を尺度上に示すものであるが、プログラム前後で心配事が変化してしまった里親が多かったため、今回の分析では、プログラム前後で同じ心配事の記載があった里親24名を対象とした。

### 手続き

これらプログラム実施前に行った質問紙のデータと、プログラム実施後に行った質問紙のデータによる比較を行い、フォスタリングチェンジ・プログラムの効果について検証した。

### 解析 方法

里親全体について、プログラム前後のSDQ得点、APQ得点、CEQ得点、CCS得点、QUARQ得点、VAS得点の平均値の差の検討(t検定)を行った。



### 結果

【表1】プログラム前後のSDQの各尺度得点の比較

	n	プログラム前	プログラム後	t値
		平均値 (SD)	平均値 (SD)	
情動	70	3.01 (2.24)	3.21 (1.97)	4.06**
行為	65	3.83 (2.31)	3.02 (1.92)	4.16**
多動	67	5.09 (2.62)	4.60 (2.42)	2.15*
仲間関係	63	2.89 (2.35)	2.21 (2.03)	3.75**
向社会性	62	5.65 (2.45)	6.06 (2.43)	-1.51
TDS	62	14.87 (6.14)	11.98 (5.70)	5.67**

\*:p<.05 \*\*:p<.01

【表2】プログラム前後の各尺度得点の比較

	n	プログラム前	プログラム後	t値
		平均値 (SD)	平均値 (SD)	
APQ	52	36.00 (4.15)	37.65 (4.34)	-3.26**
CEQ	65	38.03 (6.89)	42.42 (5.45)	-6.76**
QUARD	72	48.01 (10.69)	48.51 (11.71)	-1.54
CCS	60	51.90 (7.15)	55.60 (6.79)	-4.50**
VAS	24	25.30 (6.74)	9.45 (5.78)	10.77**

\*:p<.05 \*\*:p<.01

①SDQ得点に関しては、表1にあるように情動得点、行為得点、多動得点、仲間関係得点、TDSにおいて有意差が見られた。全体的にSDQ得点はプログラム後には改善している。すなわちプログラムの介入によって、子どもの精神症状の改善が見られたと言える。

②表2の通り、APQ、CEQ、CCS、VASの各尺度得点において有意差が見られている。すなわちプログラムの介入によって、里親の肯定的な関わりが増え、自己効力感が向上し、子どもへの対処を学んで実践し、子どもの問題行動への心配が減っている様子が見られた。

QUARQに関しては変化は見られたものの、有意差は見られなかった。QUARQの平均値が今回のデータではプログラム前でも比較的高めであった。安定した関係の子どもであったためその伸びが3か月では見えなかったという可能性もある。今後の課題として委託期間との関係の解析が必要である。



## ファシリテーター フォローアップミーティング

各地域でのプログラム実施を円滑なものにするため、養成講座終了後もファシリテーターが集まり、疑問点の解消や支援者同士の繋がりを共有する「ファシリテーターフォローアップミーティング」を実施しています。今年度は、福岡県福岡市、長野県上田市、宮城県仙台市でそれぞれ開催されました。

### 九州ブロック

参加地域：福岡市、久留米市、熊本、大分、長崎、宮崎、沖縄、広島

第一回目 2018年8月18日 参加者17名

第二回目 2019年1月11日 参加者31名

- 西日本各地域から、現状の報告とプログラムのデモンストレーションを実施し、雰囲気作りなど学びの多い時間となりました。また、実施中のリタイアについて意見交換がされました。



### 関東ブロック

参加地域：宮城、山梨、東京、横浜、長野、長崎、和歌山、静岡、福岡市、三重

第一回目 2018年6月2日 参加者16名

第二回目 2018年11月23日 参加者22名

- 各地区の実施報告ならびに進捗状況の報告と各地区の工夫点を共有しました。それぞれの課題解決に向けた情報交換をすることができました。



### 東北ブロック

参加地域：青森、宮城、千葉

第一回目 2018年12月14日 参加者14名

- 各地区の実施報告、進捗状況の報告をしました。セッションの課題について共有することができました。



### コンサルテーションディ

2019年3月1日 参加者32名

- 養成講座ファシリテーターのキャシーさんとキャロラインさんをお招きし、コンサルテーションを実施しました。疑問や課題について答えを導き出していくようなグループワークが展開され、代替行動を選ぶ、NATs(否定的自動思考)について実践的に再勉強することができました。



全体集合写真 中央：キャシーさん(左)・キャロラインさん(右)

## 今後の活動展開にむけて

| SOS子どもの村 JAPAN 理事・広島国際大学 教授 松崎 佳子 |

フォスタリング・チェンジプログラム(以下FCP)は、ネグレクトや虐待が与える影響を考慮しつつ、効果的なコミュニケーション、問題解決のスキルを重視し、里親が日々の生活の中で、子どもの行動のニーズを把握し対応できるようになること、子どもとの良好な関係性の構築を目的としている研修です。2016年度、福岡と熊本2か所での実施でスタートしたFCPは、2017年度は11か所、2018年度は、北海道から沖縄まで全国18か所での実施と拡がりました。

各地の報告にあるように、あたたかい雰囲気のなかでプログラムが実施されるようさまざまな配慮が行われています。ウェルカムボード、季節に応じた暖かい・冷たい飲み物、お菓子の用意などです。週1回、3時間、12セッションという3か月間の研修にも関わらず、この3年間各地の出席率は平均90%強と非常に高いものでした。里親同士の学び合いのなかで、里親が学んだことを家庭で実践し、自分で問題に対処する姿勢が育まれていくなど、グループ研修の力は大きいものがあります。

FCPの評価は、2つの方法で実施しています。一つは、各セッション終了時に当日のプログラムスキル等の理解度などについてのアンケートと、12セッション修了時にプログラム全体についての里親の評価と感想です。この結果は、報告書の25~26ページにまとめていますが、里親の自立性の向上、自信の回復、子どもとの関係がよくなったなどの感想が報告されており、非常に有効な研修であるとの手ごたえを感じています。

もう一つは、プログラムの開始前と修了後に実施してい

る子どもの問題行動や里親と子どもの関係性などについての6種類の質問紙尺度評価です。今回、2017年度受講里親72名を対象とした検証を実施し、5種類の質問紙で良好な変化が認められました(有意差 $p<.01$ )。

### 今後の課題と展開

英国より講師を招いての養成講座によりこの3年間で108名のファシリテーターが養成されました。しかし、異動等により実施が困難な地域も出てきていることや、今後の展開のためには、さらにファシリテーターの養成が必要です。そのため、今後は、日本人トレーナーによるファシリテーター養成講座の実施予定です。

また、ファシリテーターの実践体験を共有し資質を向上するためのフォローアップ研修やコンサルテーションのしくみなど、FCPの質の保証確保のためのシステムを構築していく必要があります。本プログラムの有効性については、今回の質問紙検証により一定程度示されましたが、今後さらに検証方法などの検討を進めていくことも課題です。

現在、里親養育支援については、フォスタリング機関の設置などガイドラインが示され、各自治体で今後の推進計画が検討されています。FCPが里親委託後研修として位置づけられ、各地で実施されることで里親養育不調の予防にもつながると考えています。

FCPの日本導入実施に関し、これまで多大な助成をいただいた日本財団に感謝申し上げます。

発行 2019年3月

特定非営利活動法人 SOS子どもの村JAPAN

〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-3-14 ブランシェ赤坂

TEL.092-737-8655 E-mail:info@sosjapan.org

[www.sosjapan.org](http://www.sosjapan.org)

公益財団法人 日本財団 助成事業